HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日本にポピュリズムは存在するか？：米国ジャパノロジストの洞察（講演者 Kenneth Ruoff）
Author(s)	町野, 和夫
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 8, 61-62
Issue Date	2019-03-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73625
Type	bulletin (article)
File Information	080-2186-9359-8.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

地域経済経営ネットワーク研究センター年報　第 8 号
北海道大学　2019 . 3

＜セミナー＞

日本にポピュリズムは存在するか？
－米国ジャパノロジストの洞察－（講演者 Kenneth Ruoff）

町野　和夫

6 月 28 日（木）に地域経済経営ネットワーク研究センター (REBN) が北大政治研究会，法学研究科附属高等法政教育研究センター，公共政策大学院附属公共政策学研究センターとの共催で開催した「日本にポピュリズムは存在するか？－米国ジャパノロジストの洞察－」について報告する。

本セミナーでは，アメリカにおける日本の天皇制／宮内庁研究の第一人者で，ポートランド州立大学日本研究センター所長の Kenneth Ruoff 教授を講師としてお招きした。まず講演の冒頭で，日米貿易摩擦で米国の反日感情が非常に強かった 1987 年に，トランプ氏（現大統領）がニューヨークタイムズ紙に広告を出し，日本は防衛面で米国にただ乗りしつつ円安で巨額の貿易黒字を不当に得ている，という内容の主張をしていたことを引用し，その論理が今も変わっていないことを指摘された。次に，トランプ大統領や彼と同様の主張は 30 年前と変わっていないのに，なぜ，今，その主張が多くの米国民から強い支持を得ているのか，また，イギリスのブレグジットや欧州各国の大規模な反移民運動など，ポピュリズム的動きが欧米で広範に見られるのに対して，こうした動きが日本では見られないのはなぜか，という問いを参加者に投げかけた。

一つ目の問いに対して教授は，グローバル化で中産階級が経済的地位を保つだけで精一杯といった状況の中でエリートがおいしい部分を独り占めするように見える一方，多くの人が，さまざまな分野において，たとえばゲイの権利などの社会問題にたいするエリートのリベラルな見解についていけないことに，トランプがうまくつけ込んできたと分析している。二つ目の問いに対する教授の答えは，ポピュリズムを Jan Werner Muller に倣い，「反エリート主義と反多元主義（移民，性的少数者などの排除）の両方を併せたもの」と定義した上で，日本でも反エリート主義と反多元主義な動きがみられるものの，ポピュリズムと呼ぶほどの運動には至っていないと結論付けた。その主な理由は，第 2 次世界大戦のトラウマがあること，所得格差が欧米に比べて小さいこと，移民制限政策によりそもそも移民が少ないこと，であるが，それに加えて，皇室のリベラルな姿勢の影響もあると示唆された。

また，米国と欧州でのポピュリズムの違いにも話が及び，米国にはポピュリズムという言葉に草の根的なポジティブなニュアンスもあるが，欧州にはそれがないことも指摘された。

約 1 時間の講演の後，非常に活発な議論が交わされた。ポピュリズムの定義，日本におけるポピュリズムの特徴や最近の動向，米国におけるポピュリズムの歴史など，参加者からの多くの質問やコメントが出され，Ruoff 教授からの回答や意見交換で 1 時間の質疑応答時間が足りないほどであっ

た。

日本研究者ということで，講演も質疑もほぼすべて日本語で行われたため，研究者や学生のみならず一般の聴講者も多く，33 名の参加者全員が，長時間にも拘らず最後まで熱心に参加してくださった。